

枚方市下水道 整備基本計画

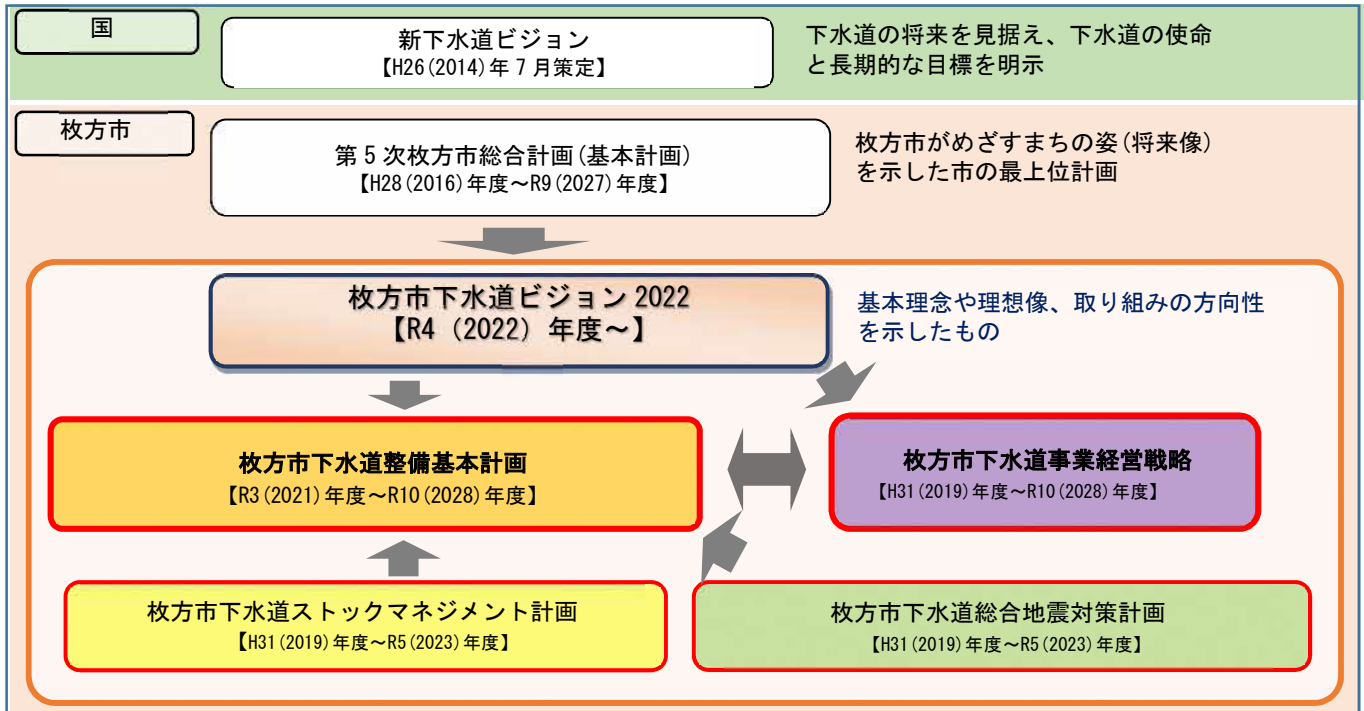
中間見直し編

(案)

令和6年(2024年)3月

枚方市上下水道局 経営戦略室 上下水道計画課

1. 計画の位置付け



2. 計画の概要

【枚方市下水道整備基本計画】

老朽化対策をはじめとする様々な事業を進めていく必要があることから、下水道整備事業における整備事業の重点項目（老朽化対策、地震対策、雨水整備、汚水整備）を示し、基本的な考え方をまとめた計画で令和3年（2021年）3月に策定しました。

計画期間 令和3年度（2021年度）～令和10年度（2028年度）

【主な実行計画】

①枚方市下水道ストックマネジメント計画

下水道施設の維持管理や老朽化対策を進めていくための実行計画です。

計画期間 平成31年度（2019年度）～令和5年度（2023年度）

②枚方市下水道総合地震対策計画（その2）

下水道施設の地震対策を進めていくための実行計画です。

計画期間 平成31年度（2019年度）～令和5年度（2023年度）

※令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）については、令和5年度に策定する枚方市下水道ストックマネジメント計画（その2）と枚方市下水道総合地震対策計画（その3）を実行計画とします。

3. 中間見直しの考え方

(1) 社会情勢の変化と課題

【社会情勢の変化】

- ◆新下水道ビジョン加速戦略(令和4年度改訂版)
- ◆下水道法の改正
(水災害の激甚化・頻発化、気候変動の影響等を踏まえた流域治水関連法)
- ◆SDGsや2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言など社会目標実現
- ◆物価高騰(資材費の高騰)

【課題】

- ◆下水道施設・管路の経年化(対策のための事業量増加)への対応
- ◆物価高騰などによる事業費の増加への対応
- ◆必要な事業費の見通しと下水道事業経営戦略(財政計画)との均衡

(2) 中間見直しの考え方

【整備基本計画】

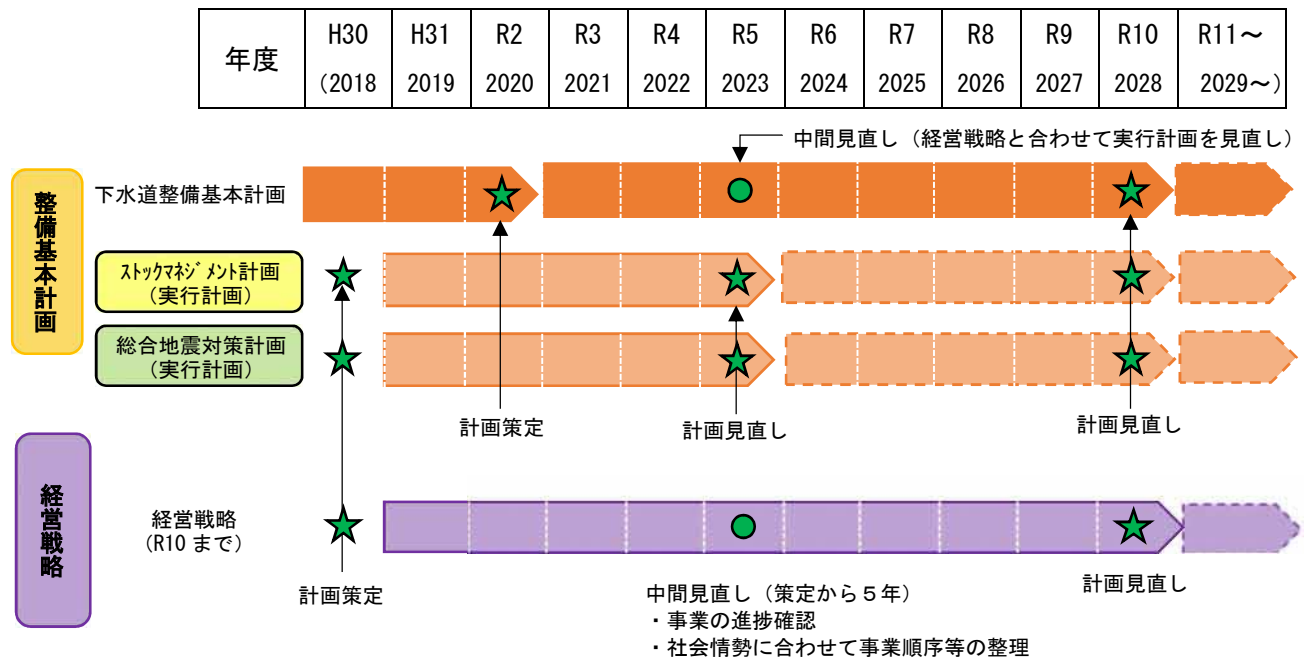
社会情勢の変化や課題によって、下水道整備基本計画で示した老朽化対策、地震対策、雨水整備、汚水整備といった4つの「重点項目」に取り組んでいくことに変更はないため、見直しは行いません。

【ストックマネジメント計画・総合地震対策計画】

実行計画であるストックマネジメント計画及び総合地震対策計画で示した事業内容は、5年間で国費(防災・安全交付金等)を活用して進めていく事業であり、毎年の国費額への対応や耐震診断含む点検・調査の結果、物価高騰などに対応するため、下記を考慮し、計画の見直しを行います。

- ◆これまでの点検・調査に基づく改築事業の反映
- ◆物価高騰を考慮した計画の見直し(経営戦略との均衡)
- ◆事業順序の整理
- ◆管理・更新一体マネジメント方式(ウォーターPPP)による民間委託の導入検討

【見直しの時期】



4. 中間見直し（案）

- 管渠の地震対策について、これまでの実績を踏まえて耐震診断を実施する管渠延長の見直しを実施します。
- 雨水ポンプ場の地震対策について、診断結果等の実績を踏まえてスケジュールや事業費の見直しを実施します。
- 新型コロナウイルス感染症による事業活動の停止や資材不足、また、世界情勢の変化や急激な物価高騰など、下水道事業への諸課題から事業スケジュールの再検討を実施しました。

（1）重点項目

重点項目1 老朽化対策



（1）管渠の老朽化対策

計画的な点検・調査、改築、修繕の実施

[実績] スtockマネジメント計画に基づき、約14,000箇所 of マンホール点検と約15kmの管内調査を実施しました。

[方向性] 15年周期で全体が点検できるよう、計画的に取り組みます。また、老朽化したマンホール蓋を計画的に更新します。

強化



（2）ポンプ場の老朽化対策

老朽化したポンプ場設備の計画的な改築の実施

[実績] 北部ポンプ場の受変電設備の更新を実施しました。

[方向性] 今後も継続して事業に取り組みます。

継続



（3）雨天時浸入水対策

流量調査や送煙調査による発生源の特定・対策

[実績] 楠葉処理分区で流量調査と送煙調査を実施しました。

[方向性] 早期の調査完了を目指し、計画的に取り組みます。

継続

重点項目2 地震対策



（1）管渠の地震対策

重要な幹線管渠等の耐震診断・地震対策の実施

[実績] 耐震診断により対策が必要と判明した箇所について、約80mの管更生工事や約70mの布設替え工事等の対策工事を実施しました。

[方向性] 耐震診断する延長を増加し、事業を計画的に実施します。

強化



（2）ポンプ場の地震対策

ポンプ場の耐震診断・地震対策の実施

[実績] 4ポンプ場（藤本川、黒田川、蹉跎、犬田川）の耐震診断を実施しました。

3ポンプ場（北部、安居川、溝谷川）の実施設計や北部ポンプ場の耐震化工事（建築）を実施しました。

[方向性] 令和7年度の完了を目指し、継続して事業に取り組みます。

継続

重点項目3 雨水整備



（1）10年確率降雨に対応した整備

下水道事業計画に基づく雨水管渠の整備

[実績] 藤阪元町地区で雨水管渠の整備に向けた実施設計を行いました。

[方向性] 今後も着実に取り組みを進めていきます。

継続

(2) 局所的な浸水対策

継続



地形的な特性で浸水が発生している地域の貯留施設や排水施設の整備

[実績] 楠葉排水区下水道浸水被害軽減総合計画に基づく雨水貯留管及び流入管の整備を実施しました。

西牧野3丁目地区や楠葉野田地区などで雨水管の整備を実施しました。

[方向性] 今後も着実に取り組みを進めていきます。

重点項目4 汚水整備

(1) 新規汚水整備

継続



下水道未整備地区における新規汚水管渠の整備

[実績] 招提大谷3丁目地区で約250mの新規整備を実施しました。

[方向性] 今後も着実に取り組みを進めていきます。

(2) 整備課題地区の整備

継続



未承諾地区や整備困難地区における汚水管渠の整備

[実績] 津田元町地区等の整備可能となった14地区で整備を実施しました。

[方向性] 今後も着実に取り組みを進めていきます。

数値目標

種別	指標名	2020年度末	数値目標 (2028年度)	2022年度末
汚水	下水道整備人口普及率	97.4%	98.0%	97.6%
雨水	主要な雨水幹線管渠の整備率	46.3%	46.5%	46.3%
汚水 雨水	重要な幹線等の耐震化率	23.8%	27.8%	23.8%
汚水 雨水	ポンプ場の耐震化率	19.5%	85.7%	24.7%

(2) 計画期間内(8年間)の投資額

計画期間内の投資額は経営戦略との整合を図っており、次のとおり見込んでいます。

区分	2021年度～2028年度		2024年度～2028年度
	当初事業費	見直し事業費	見直し事業費
重点項目1 老朽化対策	99億円	91億円	76億円
重点項目2 地震対策	15億円	32億円	26億円
重点項目3 雨水整備	47億円	54億円	31億円
重点項目4 汚水整備	33億円	33億円	21億円
計	194億円	210億円	154億円

(3) 計画期間内（8年間）の主な取り組み

朱書きは見直し箇所

重点項目 今後の取り組み(施策)	2021年度 ~ 2028年度		次期計画期間 (2029年度~)
	前期	後期	
重点項目1 老朽化対策			
(1) 管渠の老朽化対策 強化			
点検(汚水・雨水)	リスク評価の高い地域から実施		
調査(汚水・雨水)	大口径の汚水管から点検を兼ねて実施		
調査・点検データの蓄積と 維持管理システムの構築	調査・点検データの蓄積 維持管理システムの構築		
改築(汚水・雨水)	調査で緊急度Ⅰ、Ⅱと判定された管路の改築		
(2) ポンプ場の老朽化対策			
電気設備の更新	北部ポンプ場 安居川ポンプ場など	黒田川ポンプ場 藤本川ポンプ場など	
機械設備の更新	古くて重要な設備から更新		
建築設備の更新	雨水ポンプ場の耐震化に合わせて実施		
(3) 雨天時浸入水対策			
流量調査・送煙調査	楠葉処理分区・北部処理分区		
対策工事	調査結果により必要があれば実施		
重点項目2 地震対策			
(1) 管渠の地震対策 強化			
管渠の耐震診断(汚水・雨水)	重要な幹線等について、重要度の高い路線から実施		
管渠の地震対策(汚水・雨水)	耐震診断の結果、必要な対策を実施		
(2) ポンプ場の地震対策			
ポンプ場の耐震診断(雨水)	優先順位に基づき全ての雨水ポンプ場の耐震診断を実施		
ポンプ場の地震対策(雨水)	耐震診断の結果、必要な対策を実施		
重点項目3 雨水整備			
(1) 10年確率降雨に対応した整備			
管渠の整備(雨水)	藤阪元町地区など		
(2) 局所的な浸水対策			
楠葉排水区浸水被害軽減総合事業	雨水貯留管の整備		
その他局所対策	優先順位に基づき順次実施		
重点項目4 汚水整備			
(1) 新規汚水整備			
管渠の整備(汚水)	招提大谷3丁目地区など		
(2) 整備課題地区の整備			
未承諾地区	施工承諾を得た地区より順次整備		
整備困難地区	整備可能となった地区より順次整備(検討含む)		

※今後の取り組み(施策)は次期計画期間も継続します。

※PDCA サイクルに基づき5年毎に見直しを行います。